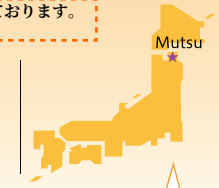
1 新たな奨学金制度による学生支援で地元雇用を創出する

官民が連携して学生のUターンを促す

青森県・むつ市 ｜ 青森銀行

※ 本事例は、2018年に取材・記事執筆を行っております。銀行名は当時のもの（青森銀行）です。

どうすれば進学で故郷を離れた若者を呼び戻せるか。そんな経営者の熱い思いが新たな制度を生み出した。地元での就職を希望する学生の学費負担を支援する「おかえり奨学金制度」。官民が連携して若者の地元就職を支援し、地域と企業の活力向上を目指す。



むつ市の概要

【人口】58,799人（2018年3月1日現在）

- 1959年9月1日に、田名部町と大湊町が「大湊田名部市」として合併、翌年の8月1日に全国初のひらがなの市「むつ市」に改称。
- 気候は、四季がはっきりとしており、夏季は短く温暖で湿度が低いことから比較的過ごしやすいが、冬季は降雪期間が長く最大積雪が山間部で1メートル以上、平野部や海岸部でも約70センチメートルに達する。
- 本州最北端、青森県北東部の下北半島に位置し、三方を海で囲まれているため、多様な水産物に恵まれている。青森県の魚に指定されているヒラメ・マイカとも呼ばれるスルメイカ・ナマコ・ほたて貝（陸奥湾は生産量が全国第2位）等。
- 国内でも珍しい、海中養殖による大畑海峡サーモンも有名。

市外に進学した学生に地元就職の魅力を伝えられているか

「高校の後輩である大学生に、地元に戻ってこないかと尋ねた時、『地元就職だと奨学金が返せない』との答えを聞いて愕然とした。大都市と地元で初任給や待遇がまるで違うことに気付かされた。若い人に地元に戻ってきてもらうには何か考えないといけないと感じた」社会福祉法人みちのく福祉会の内田大輔理事長は危機感を隠さない。

社会福祉法人みちのく福祉会の内田理事長

むつ市には、高等教育機関がないため、高校の卒業生の8割以上が地域外に進学するという。むつ市を出て行った若い世代に、どうやって地元に戻ってきてもらうかが課題になっている。

なぜ若い人材が必要なのか。自社は何を目指しているか。若い人が人生をかけて就職する会社としての魅力は何か。そういった情報を企業がしっかり発信できているか。内田氏は、同世代の経営者との間で、もっと企業として努力できることがあるのではないかという話をいつもしている。

地元に帰ってきてほしいという思い～おかえり奨学金制度～

内田氏と同じ問題意識を持つ地元企業5社は、青森銀行と提携し、地域外に進学した人が地元に戻ってきた際に奨学金を支給する「おかえり奨学金制度」を創設した。①域外の進学を希望する高校生は卒業後に就職する地元企業を予め決めておく。②青森銀行の教育ローンを利用。③地元企業は学生が卒業後に自社に就職した際に教育ローンの元金分を支給。④金利分は在学中に就職希望企業のインターンシップを受けた時の給与で補填するという仕組み。

むつ市の夜景

学生は、インターンシップを通じて就職後に求められるスキルや知識が分かるので、大学等で何を学べば良いかが明確になる。

青森銀行の教育ローンは、最優遇金利を適用し、年間60万円が上限。大学在学4年間だと合計240万円になる。

「インターンシップを通じて一定のスキルを身に付け、かつ必要な知識を習得してきた学卒者は、即戦力のリーダー候補になるため、企業側のメリットも大きい。卒業時に初めて当社を知って入社した学生を教育した場合も、当然コストはかかる。それを考えれば奨学金の負担は決して高いものではないと思う」（内田氏）

地方銀行と熱い思いを共有して制度を設計

おかえり奨学金制度の創設で青森銀行と連携することになった経緯を内田氏に尋ねると、「青森銀行むつ支店長と食事をする機会があり、おぼろげながら考えていた奨学金のことを話してみた。最初は雑談という感じだったが、企業が奨学金を支給した場合の税金はどうなるのか、どういったスキームにすればよいのか、銀行が融資する際に問題となることはないのか、など疑問を全てぶつけていくうちに、熱い議論になり、気付けばお店の閉店時間になっていました」と楽しげに当時を振り返る。

その日のうちに全体のイメージができあがった。その後、同行の担当部門も交えて詳細を詰め、制度の実現に至った。

社会福祉法人みちのく福祉会のみなさん

学生の帰郷を産官金が迎える

おかえり奨学金制度による支援プログラムには、むつ市も連携に加わっている。同市も、以前から新規雇用を生み出す企業誘致や空き店舗を活用した創業支援などに注力していた。実際に、企業誘致が実現した件数も増えている。

むつ市の宮下宗一郎市長は「おかえり奨学金制度が目指すものは、まさに我々の問題意識と一致していた。市内の中核的な企業5社が、率先した取組みをやってくれることは市としても嬉しかった。人材確保は喫緊の課題。地元企業や金融機関をはじめとする民間の取組みを市としてもできる限りサポートしたい」と意欲をみせる。

内田氏は、むつ市との連携について、「市がこの制度に賛同してくれて大いに勇気づけられた。市長の声掛けで情報発信してもらい、大きなPR効果もあった」と、にこやかに語る。

奨学金支援プログラム以外にも、むつ市と青森銀行は働く世代のサポートで連携している。むつ市は、人間ドック・がん検診を推奨する取組みなど一定の基準を満たす企業を認定する「むつ市すこやかサポート事業所認定制度」を創設しており、青森銀行は専用融資商品で認定企業を支援する。

民間の取組みを市が支援し、市の施策に地方銀行が足並みを揃える。

この春、おかえり奨学金制度の第一期生が、むつ市から旅立った。地元企業、行政、地域金融機関など、地元のみんなが学生の帰りを心待ちにしている。

むつ市の宮下市長

Data 住み慣れた地元で就職したい！

「卒業したら地元に戻っておいで」よくそんな言葉を耳にします。学生の就職を支援するマイナビが2018年大学・大学院卒業見込みの学生に実施した調査によると、地元での就職を「全く希望しない」と回答した学生は19.6%。約8割の学生は地元就職を少なからず考えているようです。地元就職を希望する理由で一番多いのは、「両親や祖父母の近くで生活したいから」。また、あまり地元就職を考えていないという学生も、「働きたいと思うような企業が多くできる」ことが実現すれば考えるとしています。家族の近くで魅力ある仕事をすることが、学生の願いなのかもしれません。

地元（Uターン含む）就職を希望する理由は何ですか。

両親や祖父母の近くで生活したいから	47.9%
実家から通えて経済的に楽だから	42.2%
地元の風土が好きだから	41.2%
地元での生活に慣れているから	39.7%
仕事とプライベートを両立させたいから	27.1%
地元に貢献したいから	25.1%
友人が多いから	21.2%
志望企業があるから	20.4%
都会で生活する自信がないから	15.4%

実現すれば地元就職するかもしれないことは何ですか。

働きたいと思うような企業が多くできる	47.1%
給料がよい就職先が多くできる	35.4%
志望する企業の支社や研究所ができる	30.2%
志望する職種に就けるようになる	24.9%
地元に結婚したいと思う相手ができる	21.5%
地元の経済が活性化する	21.4%
地元までの交通手段が大幅に改善する	18.5%
税金が多少免除される	15.8%
奨学金の返済を肩代わりしてくれる	15.5%
引越しや住居の費用負担をしてもらえる	12.1%